<別紙３－１表>

生育状況調査群落調査票（追跡調査）

(10) 取扱	

(1)調査年月日	
(2)都道府県	

(3)対照番号	(4) 特定植物群落調査群落名（生育状況調査群落名）	
(5)1/5万地形図名	(6) 位置	(7) 所在市町村
		市 町 郡 村

(8) 標高	(最高部) m(最低部) m	(9) 面積	ha(ha)

(11)対象群落の概要

(12)コドラート調査

(ア) コドラート	a．標高 m	b．斜面方位	c．傾斜 °	d．面積 ㎡

(イ) コドラート設定の変更（前回調査に対して）	a．コドラート設定の変更 無 ・ 有 （ b～d 記入 ）	
	b．位置の変更 無 ・ 有 （理由 ）	
	c．面積の変更 無 ・ 有 （ ㎡ → ㎡、理由 ）	
	d．特記事項	
(ウ) コドラート内群落の概要		
(エ) 群落種組成の変化（前回調査との比較）	a．著しい変化 無 ・ 有 （ b～e 記入 ）	b．種数の変化 増 ・ 減 （ 種→ 種）
	c．新出した主な種	
	d．消失した主な種	
	e．特記事項	

<別紙３－１裏>

(ｵ) 群落構造の変化（前回調査との比較）	a．著しい変化 無　・　有（b～g 記入）	b．群落高の変化 m →　　m	
	c．相観の変化		
	d．優占種の交代 →		
	e．階層構造の変化		
	f．個体の分布(粗密など)の変化	g．個体の生長(胸高直径など)	
	h．特記事項		
(ｶ) 群落生育状況の変化（前回調査との比較）	a．現状 極めて良好　良好　普通　不良　極めて不良		
	b．前回と比べて 変化無　・　変化有（　→　）		
	c．変化の状況		
	d．変化の原因		
	e．特記事項		
(ｷ) 周辺の植生及び土地利用			

(13) 選定理由		(14) 土地所有者	
(15) 補足事項			
(16) 調査者所属		(17) 調査者氏名	

（生育状況調査群落調査票（追跡調査）記入上の注意）

1．1件（1群落）につき生育状況調査群落調査票（追跡調査）は1枚とする。

2．(2)「都道府県」から(8)「標高」、(13)「選定理由」には、昭和61年度に作成した生育状況調査群落概要調査票の内容をそのまま記入する。明らかな誤記、誤認等で訂正が必要である場合には書き写した文に二重線を引いて訂正し、その理由を(15)「補足事項」欄に略記する。

3．(9)「面積」には、前回調査と面積の変化が見られない場合は前回調査で作成された生育状況調査群落概要調査票の内容をそのまま記入する。何らかの理由で面積に変化が見られたときは、新面積を記入し、カッコ内に旧面積を記入する。

4．(10)「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれのある等、その植物群落の公表が不都合な場合は、赤字で『秘』と記入する。

5．(11)「対象群落の概要」には、前回調査で作成された生育状況調査群落調査票」の「対象群落の概況」を参照して記載するほか、当該群落の生育状況、遷移等で特記することがあれば記載する。

なお、対象生育状況調査群落が改変等により、調査の実行が不可能になった場合、当欄に「調査実行不能」と赤で書き、その理由を記入する。

6．(12)(ｱ)「コドラート」には、今回調査した生育状況調査群落のコドラート（以下コドラート）について記入する。

7．(ｲ)「コドラート設定の変更（前回調査に対して）」

(1)a．「コドラート設定の変更」には、コドラート設定の変更の有無に○を付け、有の場合は以下のb～dについて適宜記入する。

(2)b．「位置の変更」には、コドラートの位置の変更の有無に○を付け、有の場合はその理由を略記する。

（例）理由　前回の調査コドラートが発見できないため。

(3)ｃ．「面積の変更」には、コドラートの面積の変更の有無に○を付け、有の場合は前回調査時の面積と今回調査の面積をそれぞれ記入し、変更理由を略記する。

（例）理由　低木林から高木林に変化したため。

(4)ｄ．「特記事項」には以上のことの他に、コドラート設定の変更について特記することがあれば記入する。

8．(ｳ)「コドラート内群落の概要」にはコドラート内群落の概要について(11)「対象群落の概要」を参考にして記入する。

9．(ｴ)「群落種組成の変化（前回調査との比較）」

(1)ａ．「著しい変化」にはコドラート内群落の種組成の著しい変化の有無に○を付け、有の場合は以下のｂ～ｅの該当項目に記入する。

(2)ｂ．「種数の変化」欄には、コドラート内の種数の増減に○を付け、前回調査の種数と今回調査の種数をそれぞれ記入する。

(3)ｃ．「新出した主な種」には、前回調査時にはコドラート内に見られなかった種で、今回調査で新たに見られた主な種（貴重種、群落を特徴づける種、優占度が高い種、個体数の多い種など）を記入する。

(4)ｄ．「消失した主な種」欄には、前回調査時にはコドラート内で見られた種で、今回調査では見られなかった主な種（貴重種、群落を特徴づけていた種、優占度の高かった種、個体数の多かった種など）を記入する。

(5)ｅ．「特記事項」は以上の他に、群落種組成の変化について特記することがあれば記入する。

10．(ｵ)「群落構造の変化（前回調査との比較）」

(1)ａ．「著しい変化」にはコドラート内の群落構造の変化の有無に○を付け、有の場合は以下のｂ～ｈの該当項目に記入する。

(2)ｂ．「群落高の変化」には、前回調査時の最上階層の高さと今回調査時の最上階層の高さをそれぞれ記入する。

(3)ｃ．「相観の変化」には、コドラート内群落の相観の著しい変化について略記

する。

（例．常緑落葉混交林から常緑樹林への変化）

(4)ｄ．「優占種の交代」には、前回調査時の優占種と今回調査の優占種をそれぞれ記入する。

(5)ｅ．「階層構造の変化」には、コドラート内群落の階層構造の著しい変化について略記する。

(6)ｆ．「個体の分布（粗密など）の変化」には、コドラート内の個体の分布の著しい変化の有無に○を付け、有の場合には、それについて略記する。

(7)ｇ．「個体の生長（胸高直径など）」には、コドラート内の個体の胸高直径、樹冠の大きさなどに著しい変化が見られた場合、それを略記する。

(8)ｈ．「特記事項」には以上の他に、群落構造の変化について特記することがあれば記入する。

11．(ｶ)「群落生育状況の変化（前回調査との比較）」

(1)ａ．「現状」にはコドラート内の群落の生育状況について、「極めて良好」、「良好」、「普通」、「不良」、「極めて不良」のいずれかに○を付ける。

(2)ｂ．「前回と比べて」には、前回調査時と比較して生育状況の変化の有無に○を付け、有の場合には前回調査時と今回調査時の状況をそれぞれ記入する(上記(1)の表現)。

(3)ｃ．「変化の状況」には、コドラート内群落の生育状況の変化について具体的に記入する。

(4)ｄ．「変化の原因」には、コドラート内群落の生育状況の変化の原因(推定を含む)についてを具体的に記入する。

(5)e．「特記事項」には、以上の他に群落の生育状況について特記することがあれば記入する。

12．(ｷ)「周辺の植生及び土地利用」には、対象群落(コドラートを含む生育状況調査群落)周辺の植生の生育状況について特記することがあれば記入する。また、対象群落周辺の植生及び土地利用で、対象群落に影響を及ぼしているまたは、及ぼすおそれのある行為、工作物等を特記する

13．(14)「土地所有者」には、前回調査時と土地所有者が同じ場合、前回調査の内容をそのまま書き写す。土地所有が変わった場合には、国・公有地の場合は、生育状況調査群落に係る土地を管理する機関名まで記入し、私有地の場合は、「私有地」と記入する。

14．(15)「補足事項」には、２．(2)の他、上記以外にコドラート内群落について特記することがあれば記入する。

15．(16)「調査者所属」及び、(17)「調査者氏名」には当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

16．添付図面及び現況写真

当該調査票には、生育状況調査群落の全景もしくは代表的な部分の現況を定点からカラーフィルムにより撮影しプリント(サービスサイズでよい)を添付する。

なお、ネガは防湿に配慮して都道府県において保管する。

(別紙３－５「現況写真撮影方法記録票」参照)

＜別紙３－２＞

（コドラート位置図作成上の注意）

設定したコドラートの位置を、後日、再確認できるようにするため、次の例にならい、位置図を作成する。原則としてA4判もしくはA3判に収まる程度の大きさとし、縮尺は問わないが、必ず方位とスケールを記入すること。（林班図、土地利用図、都市計画図、各種管内図等適当な縮尺の図面を用いる。適当な縮尺の図面が入手できない場合は、1/5万または1/2.5万地形図もしくは見取図でもやむを得ない。）

位置図は、①道路等から当該コドラートに至る道筋を明らかにした図とともに、②コドラートの範囲、目標物等についてできるだけ詳しく記入した、コドラート周辺の詳細図を作成する。

なお、第３回自然環境保全基礎調査、特定植物群落調査（生育状況調査）（1988年）の同図とコドラートの目印や周辺の状況等に変化がない場合はコピーでもよい。

<別紙３－２>

コドラート調査票

(1)調査年月日	
(2)都道府県	

(3)対照番号	(4) 特定植物群落調査群落名(生育状況調査群落名)		
(5)コドラート設定の変更	あり なし	(6) 植生タイプ	→
(7) コドラート 変更の理由			
(8) 種類組成の変化	コドラート内		
(11) 群落構成の変化			
(12) 生育状況の変化			
(15) 補足事項			
(16) 調査者所属		(17) 調査者氏名	

<別紙３－３>

毎木調査票

(1) 調査年月日	
(2) 都道府県	

(3)対照番号			(4)特定植物群落調査群落名（生育状況調査群落名）			
(5)番号	(6)旧Noテープ	(7)新Noテープ	(8)種名	(9)樹高(m)	(10)胸高直径(cm)	(11)樹木の状態
(12)樹高の測定方法			測高器　測竿　目測		(13)調査者氏名	

（毎木調査票及び樹冠投影図作成上の注意）

高木林１件（１生育地）につき、毎木調査票及び樹冠投影図はそれぞれ１枚とする。

Ⅰ　毎木調査

１．「(3)対照番号」欄には、これまでに作成された「特定植物群落調査票」に記載された番号を記入する。

２．「(4)特定植物群落名（生育状況調査群落名）」欄には、「生育状況調査群落概要調査票」の同欄と同様に記載する。

３．「(5)番号」欄には、毎木調査の対象となる樹木の番号を記載する。前回調査で測定されたものについては、原則として同じ番号とする。また、前回調査の毎木調査対象樹木で、枯死していた樹木についても記入する。

なお、今回新たに計測する樹木については計測した順に記載する。（ただし、第３回自然環境保全基礎調査において、既に選定された群落の対照番号との重複を避け、これまでに用いた番号に引き続く通し番号とすること。）

４．「(6)旧Noテープ」欄には、前回の調査で毎木調査の対象樹木の樹幹に貼付したNoテープの番号を記入する。今回、新たに毎木調査を実施する対象樹木の欄には斜線を引くこと。

５．「(7)新Noテープ」欄には、今回の調査で毎木調査の対象樹木の樹幹に貼付したNoテープの番号を記入する。対象樹木が枯死していた場合は新Noテープを貼付する必要はない。

６．「(9)樹高」欄には測定した樹高（目測の場合は m 単位、その他の測定法の場合は小数第１位まで求める。）を記入する。

7．「(10)胸高直径」欄には、cm 単位で測定した胸高直径を記入する。

胸高直径は、直径換算目盛のある巻尺により計測するものとするが、普通の巻き尺による場合は、計測した樹幹周を3.14で除して求める。

胸高直径の計測位置は、計測しようとする樹木の斜面上部において地上約1.3mの位置で樹幹の直径を計測し、計測した位置にペンキ等により印を付けておく。

なお、枯死した樹木については計測する必要はない。

8．「(11)樹木の状態」欄は、毎木調査の対象となる樹木について、枯死、枯損の状態、樹勢の現況、病虫害及び気象害の発生状況等、樹木の状態を記載する。

また、菌類及び地衣類(サルオガセ等、顕著なもの)が着生している場合は、本欄に記載する。

[樹勢の記載例]

・一部に茶褐色の葉が見られる。

・大きな枝の一部が枯れている。

・落葉した枝が見られる。

・落葉した枝が多く、枝がよく見える。

・枯死。

9．「(12)樹高の測定方法」欄は、樹高の測定方法につき、測高器、測竿、目測、その他の中から該当するものを○で囲む。なお、その他の方法によった場合は余白に記入する。

10．なお、測定した各樹木の位置は、「II　樹幹投影図」に示すものとする。

11．「(13)調査者の氏名」欄には、毎木調査を実施した者の氏名を記入する。

II　樹幹投影図

1．用紙は、A3判の方眼紙あるいはそれと同等のものを用意する。

2．縮尺は原則として 1/100 とする。

3．X軸及びY軸の右端及び上端に両端の方位を N25°E のように記載する。
　また、コドラート内の顕著な地物(露岩等)の位置をプロットするとともに地物の種類を記載する。

4．調査対象の各樹木(樹高8m以上)の根元の位置を直径にほぼ比例する黒点で示し、その横に樹木番号を記入する。(毎木調査票「(5)番号」欄の番号)を記入する。

5．各樹木の樹幹のひろがり(輪郭)を描く。樹幹が重なり合う場合は、下層のものを点線で記載する。

6．樹幹の重なりが複数な場合や、樹木の根元が樹幹の輪郭外に存在する場合は、根元の位置と樹幹の輪郭を線で結んで紛れないようにしておく。(下図参照)

7．コドラート外に根元があって、樹冠だけがコドラート内にかかっている樹高おおむね8m以上の樹木がある場合は、コドラートにかかる部分の樹冠の輪郭のみを樹冠投影図上に表現する。

(例)

現況写真撮影方法記録票

(1) 調査年度	
(2) 都道府県	

(3) 対照番号	(4) 特定植物群落調査群落名（生育状況調査群落名）

(7) 種別		(イ) 撮影日時	昭和　年　月　日	(ウ) 使用レンズ	mm
(エ) 撮影定点の位置					
(オ) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(イ) 撮影日時	昭和　年　月　日	(ウ) 使用レンズ	mm
(エ) 撮影定点の位置					
(オ) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(イ) 撮影日時	昭和　年　月　日	(ウ) 使用レンズ	mm
(エ) 撮影定点の位置					
(オ) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(イ) 撮影日時	昭和　年　月　日	(ウ) 使用レンズ	mm
(エ) 撮影定点の位置					
(オ) 撮影の目標物及び方向					

（現況写真撮影方法記録票記入上の注意）

可能であれば、生育状況調査群落及びコドラートの現況写真は、本年度に限らず、毎年夏、継続的に定点から類似の構図で撮影し、記録を保持することが望ましい。

1．「(3)対照番号」欄には、これまでに作成された「特定植物群落調査票」における対照番号を記入する。

2．「(4)特定植物群落名(生育状況調査群落名)」欄には、「生育状況調査群落概要調査票」の同欄と同様に記入する。

3．「(ｱ)種別」欄には、現況写真の撮影対象について、「生育状況調査群落全景」、「生育状況調査群落代表的地域」、「コドラート」の別を記入する。

4．「(ｴ)撮影定点の位置」欄には、定点の位置を地番もしくは林小班で表示するとともに、後日、定点の位置を確認しやすいようにその特徴を記載する。前回調査と同じ場合は、同票、同欄と同じ記述とし、空白としない。

また、定点の位置をそれぞれ、生育状況調査群落位置図もしくはコドラート位置図に記録しておく。

（定点の位置の記載例）

○○県△△郡××町□□事業区94林班ロ小班

△△山登山道沿いの見晴台と呼ばれる展望台で、山頂まで4.5kmの指導標が設置されている。

5．「(ｵ)撮影の目標物及び方向」欄には、現況写真撮影の構図を定めるにあたって目標となる地形（山頂、川、岩壁等）及び地物（顕著な樹木あるいは露岩等）を記載する。前回調査と同じ場合は、同票、同欄と同じ記述とし、空白としない。

（記載例）

定点東端の通称「天狗岩」の上から、NNE の方向にある○○山山頂が、ファインダー左端上部に収まる方向で撮影する。